

気象庁本庁庁舎における「緊急地震速報モデル実験」実施マニュアル
(Version.1)

平成 19 年 4 月
気 象 庁

本マニュアルは、気象庁本庁庁舎（東京都千代田区大手町）において「緊急地震速報モデル実験」を実施するにあたり、実験に伴う不測の混乱等を防止し、モデル実験が円滑に行われることを目的として、モデル実験の内容及び周知・訓練の方法、職員等の行動のあり方等を定めるものである。

1 モデル実験の意義

緊急地震速報のモデル実験は、対象地域を設定し、その地域内のモデル実験対象者に対して、実際に緊急地震速報を伝達するとともに、緊急地震速報の認知度、情報伝達方法、情報受信時の行動等についてアンケート調査を行うことにより、緊急地震速報の有効性を検証するとともに、緊急地震速報を広く国民に提供するにあたっての課題を洗い出しすることを目的に実施するものである。

気象庁本庁庁舎内でモデル実験を実施することにより、外来者に対する周知・広報・意見の収集が行えるとともに、報道等に取り上げられることにより広く国民への周知・広報の効果も期待される。さらに、気象庁職員による、自らの実体験に基づいたより説得力のある周知・広報活動が可能となると期待できることから、気象庁本庁庁舎内で実施することとしたものである。

2 モデル実験の実施内容

(1) 対象地域

気象庁本庁庁舎内のすべてのフロアー（講堂、屋上ペントハウス及び東京管区气象台を含む）

(2) 対象者

対象地域内にいる外来者を含むすべての者

(3) 緊急地震速報伝達する基準

気象庁本庁庁舎において震度3以上の揺れが想定される場合

(4) 伝達方法

館内放送により、以下の内容をアナウンスする。

「(チャイム音) + 緊急地震速報です。地震が発生しましたので落ち着いて行動して下さい。」

(5) 訓練

ア 定期訓練

毎月、第1火曜日を、「緊急地震速報定期訓練の日」として位置付け、模擬情報による放送し、庁舎内にいるもの全てが、本マニュアル“4項「緊急地震速報受信時の行動のあり方」”に従い、行動する定期訓練を実施する。実施時刻については、ポスター等で周知する。なお訓練の実施が業務上、困難であると判断された場合には、別の日に実施する。

イ 臨時訓練

上項“ア”の定期訓練以外に、必要に応じて臨時的な訓練を行うこととする。なお、その実施日については、関係者間で調整し決定する。

3 モデル実験の周知方法

(1) 気象庁職員その他の庁舎常勤者（福利厚生施設、記者クラブを含む）

ア このマニュアルを全員に配布

イ 緊急地震速報の技術的限界、受信した際の行動等について講習会を実施

・最初に各課室、施設等の代表者に対し、地震火山部が講習会を実施

・次にその代表者が、各課室等において講習会を実施。実施後、実施日、参加者数等を報告

(2) 外来者

ア 庁舎出入り口（正面及び南口。以下同じ。）に、モデル実験実施中であることを示す看板を設置するとともに、庁舎内の各階掲示板（喫茶、食堂等を含む）等を利用してポスターの掲示を行う。

イ 外来者に対し、入庁時に別紙1に示すビラ及び緊急地震速報の紹介用リーフレットを手にとっただけできるよう、庁舎出入り口付近にビラとリーフレットを常備（アンケート記入台を兼ねる）するとともに、呼びかけるための張り紙（緊急地震速報放送時のアンケートへの協力依頼を含む）などを掲示し、実験への協力を依頼

4 緊急地震速報受信時の行動のあり方

(1) 基本的な考え方

周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する。また、近くに外来者がいる場合は、適切な行動をするよう誘導する。

(2) 事前準備

・執務室等において、地震時に転倒や破損（窓ガラス等）の可能性があるものをチェックするとともに、各職員は、「緊急地震速報利用の心得」を参考に、身の安全を確保するために緊急地震速報受信時にどのような行動を取るべきかを想定しておく。（課室等の講習会の際に、課内で職員の行動のあり方について議論することも有効である。）

- ・1階ロビー、気象科学館等外来者が常時立ち入る場所については、地震時にそこから離れることが望ましい場所を、床に赤テープを貼るなどして、外来者にわかるように表示する。
- ・エレベーター各機内には、「緊急地震速報を聞いた場合には最寄階に停止させ速やかに機外に出ること。」を、各階のエレベーターホールには、「緊急地震速報の放送を聞いた場合には、当庁職員の指示があるまでエレベーターを利用しない。」ことを、ポスターを用いて掲示する。

(3) 具体的な行動

ア 執務室等

- ・身の安全確保のための行動（あらかじめ想定したもの）をとる。
- ・近くに外来者がいる場合は、声を掛けるなどして、適切な行動が取れるよう誘導する。

イ 食堂、喫茶店等

ア) 利用者

- ・着席中の場合は、その場でじっとして揺れに備える。なお、熱湯などが飛散する可能性があることに注意する。
- ・トレイを持って移動中の場合は、トレイを安全な場所(例えば床)に置く。

イ) 厨房内

- ・その場で火を消せる場合は消火する。
- ・やけどのおそれがある調理中の鍋や熱湯などからは離れる。
- ・配膳は中断する。

ウ エレベーター

- ・エレベーターを利用中の場合は、最寄りの階に停止させ、エレベーターの停止後、すみやかに機外へ出る。
- ・当庁職員の指示があるまで、エレベーターを利用しない。

5 緊急地震速報伝達後のアンケートの実施

(1) 外来者

- ・緊急地震速報の放送があった場合、退庁時にアンケートへの協力を呼びかけ、庁舎出入り口で回収する。
- ・緊急地震速報の放送があった場合のアンケートの配布は、警備員が行う。
- ・アンケートの回収については、庁舎入り口付近に設置したアンケート記入台に備えた「アンケート回収箱」に投函していただくよう説明する。

(2) 気象庁職員及びその他の庁舎常勤者

- ・後日メール等によりアンケートを配布、回収する。

一般向け緊急地震速報の利用の心得

緊急地震速報の利用の心得

『周囲の状況に応じて、
あわてずに、まず身の安全を確保する。』

緊急地震速報を利用した適切な避難行動を図るための、緊急地震速報の利用にあたっての「心得」は、『周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する』ことに尽きる。

緊急地震速報は、地震が発生してから強い揺れが襲来するまでのごく短い時間を活用して、地震による被害を軽減しようとする情報である。そのため、建物の中から屋外へ避難するようなことは極めて困難である。すなわち、緊急地震速報受信時の行動は、『周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する』ことが基本となる。

なお、地震被害の軽減を図るためには、緊急地震速報の利用とともに、事前に、建物に耐震補強をしておくことや家具が倒れない措置をしておくことなどが必要である。

以下に、この「心得」を踏まえた、さまざまな場面における情報受信時の具体的な対応行動の指針を示す。なお、この対応行動の指針は、あくまで一つの例であり、この指針を参考にして、緊急地震速報受信時に、どのように行動すれば良いかを、自らが考えていただくことが重要である。

【さまざまな場面における具体的な対応行動の指針】

1 家庭

家庭での対応行動の指針がすべての場面での基本であり、家庭以外の学校や職場等で緊急地震速報を受信したときの行動についても、家庭での指針を基に自ら考えておくことが重要である。

- ・頭を保護し、大きな家具からは離れ、丈夫な机の下などに隠れる。
- ・あわてて外へ飛び出さない。
- ・その場で火を消せる場合は火の始末、火元から離れている場合は無理して消火しない。
- ・扉を開けて避難路を確保する。

2 不特定多数の者が出入りする施設

施設の従業員等の指示に従うことを基本とする。なお、施設従業員等から明確な指示がない場合は、以下の対応行動の例を基本とする。

- ・その場で、頭を保護し、揺れに備えて身構える。
- ・あわてて出口・階段などに殺到しない。
- ・吊り下がっている照明などの下からは退避する。

3 屋外

【街にいるとき】

- ・ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒に注意し、これらのそばから離れる。
- ・ビルからの壁、看板、割れたガラスの落下に備え、ビルのそばから離れる。
- ・丈夫なビルのそばであればビルの中に避難する。

【山やがけ付近にいるとき】

- ・落石やがけ崩れに注意する。

4 乗り物で移動中

【自動車運転中】

- ・後続の車が情報を聞いていないおそれがあることを考慮し、あわててスピードを落とすことはしない。
- ・ハザードランプを点灯するなどして、まわりの車に注意を促したのち、急ブレーキはかけずに、緩やかにスピードを落とす。大きな揺れを感じたら、急ハンドル、急ブレーキをさけるなど、できるだけ安全な方法により、道路状況を確認して左側に停止させる。

【鉄道・バスに乗車中】

- ・つり革、手すりなどにしっかりつかまる。

【エレベーター利用中】

- ・最寄りの階で停止させ、速やかにエレベーターから降りる。

大地震の時の心得

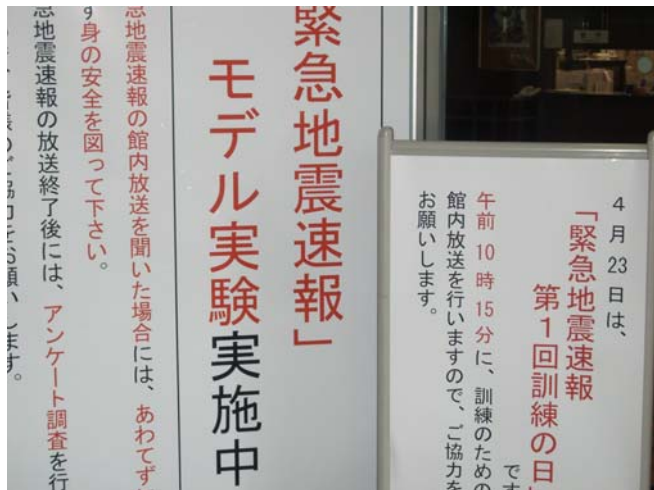
1. テーブルや机の下に身をかくしあわてて外に飛び出さな
2. 大地震1分過ぎたらまず安心
3. テレビやラジオをつけて地震の情報を
4. 海岸でグラツときたら高台へ
5. 近づくな自動販売機やビルのそば
6. 気をつけよ山崩れと崖崩れ
7. 避難は徒歩で荷物は最小限に
8. 余震が起きてもあわてずに正しい情報に従って行動を
9. 不意の地震に、日頃の用意

「緊急地震速報」を活かすために

「緊急地震速報」が運用されても、地震への備えができていなければ身の安全を守ることはできない。「緊急地震速報」を活かすためには、以下のような点を、あらためて徹底することが不可欠である。

1. 住宅・建造物の耐震化
2. 家具・什器などの転倒・移動防止
3. 備品の落下防止
4. ガラスなどの飛散防止
5. 地震時に身を守るための行動や方法
6. 安全な場所の確認
7. 防災訓練の実施

気象庁庁舎におけるモデル実験の実施状況



庁舎入り口の設置看板（常設用と訓練用）



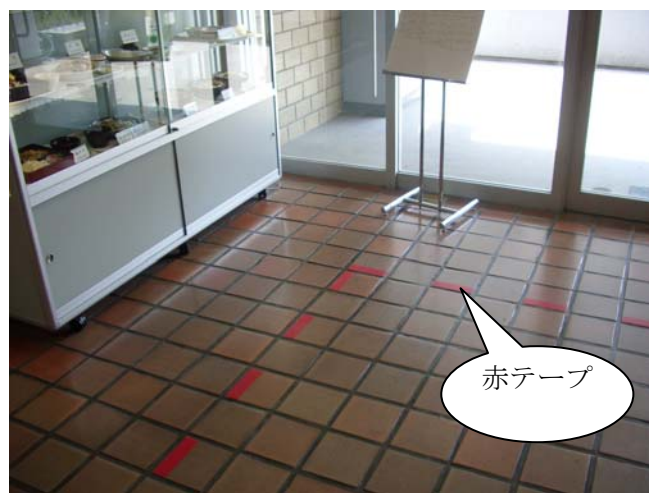
外来者入庁時には、警備員がビラ・アンケートを配布



庁舎窓ガラスなど、地震時に破損・転倒の可能性があるものの周囲を赤テープで表示（速やかに離れる必要がある）



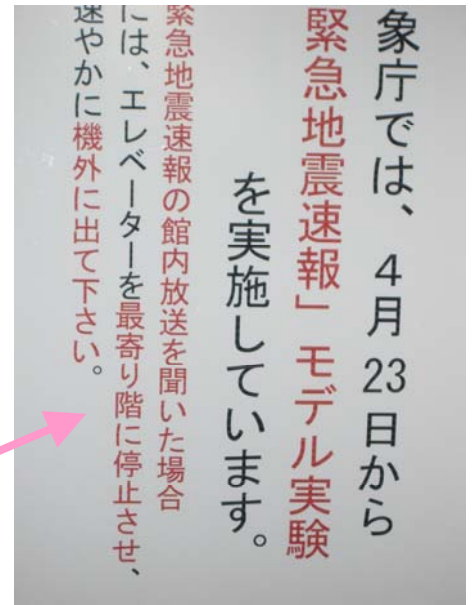
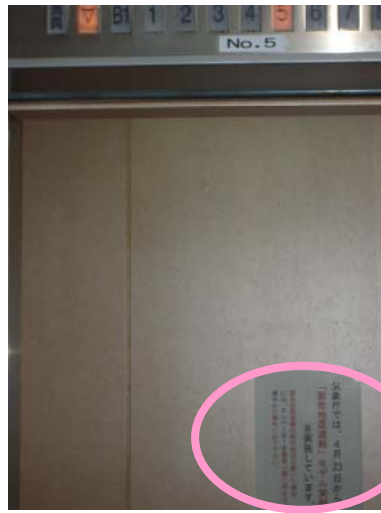
食堂入り口における周知ポスター設置（東京消防庁職員など部外者も立ち入る可能性あり）



ガラス製ショーケースの周囲を赤テープで表示（速やかに離れる必要がある）



エレベーターホールの周知ポスター（緊急地震速報を聞いた場合は、別途案内あるまで利用禁止）



エレベーター内の周知ポスター



訓練時の状況①（天気相談所では、職員の誘導により利用者が机の下へ潜って身の安全を確保）



訓練時の状況②（エレベーターは、監視員による最寄階への停止操作も合わせて実施）



訓練時の状況③（気象科学館では、地震発生時の安全ゾーンを青テープで表示。訓練では、職員の誘導により利用者が安全ゾーン内に集まって身の安全を確保した。）



青テープ

「緊急地震速報」 モデル実験実施中

気象庁では、気象庁本庁庁舎内で、
「緊急地震速報」モデル実験（情報を聞いた
場合の対応行動の調査）を行っています。

“震度3以上”の揺れが推定されると、
庁舎内に「緊急地震速報」が放送されますが、

周囲の状況に応じて、
あわてずに、
まず身の安全を図って下さい。

- 1階ロビーや気象科学館等では、地震時に、離れることが望ましい場所や身の安全が確保できる場所をテープ等で表示しています。
放送を聞いた場合、速やかにこれらの表示に従って行動して下さい。
 - 頭を保護し、書棚のそばや、照明の下から離れて下さい。
また、丈夫な机がある場合には、その下などに隠れて下さい。
 - あわてて出口や階段に向かったり、外に飛び出さないで下さい。
 - 食堂や喫茶では、基本的にはその場で揺れに備え、トレイを持って移動中の時は、トレイを安全な場所(例えば床)に置いて下さい。
 - エレベーター利用中の場合は、全てのボタンを押して最寄り階に停止させ、速やかにエレベーターから降りて下さい。
 - 近くにいる当庁職員及び関係者の指示に従って下さい。
- ※なお、放送終了後にアンケートを実施しますのでご協力下さい。

緊急地震速報モデル実験に関するアンケート

先ほど、緊急地震速報の放送がありました。お急ぎのところ申し訳ありませんが、本アンケートにご協力いただきますよう、よろしくお願い致します。

なお、ご回答いただきましたアンケート結果は、緊急地震速報を広く国民の皆様へ提供するための検討目的以外には利用致しません。

以下の質問について、該当事項に“○”をつけて下さい。

質問1 「緊急地震速報」の放送が行われた時、どこにおられましたか？

食堂 喫茶店 気象科学館 書店 1階ロビー エレベーター 天気相談所
図書館 地下1階売店 講堂 2階以上の事務室・会議室 その他()

質問2 「緊急地震速報」の放送が行われた時、どのような行動をとりましたか？

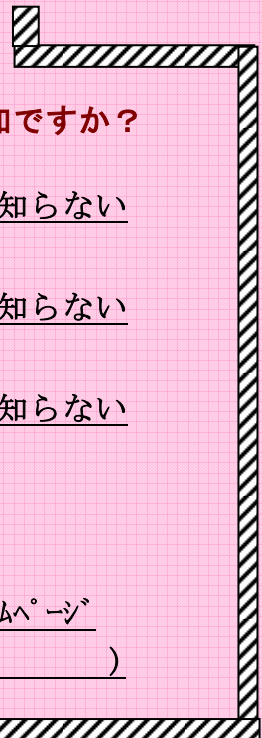
- ① 身構えたりしゃがみ込むなど、その場で身の安全を確保した。
- ② その場から離れ、安全な場所へ移動した。
- ③ 何もできなかった (その理由:)
- ③ その他 ()

次に、「緊急地震速報」についてお伺いします。

質問3 「緊急地震速報」という情報をご存知でしたか？

(以下、回答の下にある矢印に沿ってお答え下さい)

内容まで知っていた なんとなく知っていた 知らなかった



質問4 「緊急地震速報」には以下の特徴や技術的限界がありますが、ご存知ですか？

- | | | |
|--------------------------------------|--------------|-------------|
| ・地震による大きな揺れが来ることを、できるだけすばやく伝える情報である。 | <u>知っている</u> | <u>知らない</u> |
| ・情報の発表が、強い揺れの後となってしまうことがある。 | <u>知っている</u> | <u>知らない</u> |
| ・揺れの強さを予測する情報であるので、天気予報のように外れることがある。 | <u>知っている</u> | <u>知らない</u> |



質問5 「緊急地震速報」をどのようなものから知りましたか？

テレビ ラジオ 新聞 気象庁のホームページ その他のホームページ
気象庁作成のリーフレット「緊急地震速報をご存知ですか」 その他()



質問6 最後にあなたのことについて、お聞かせ下さい。

(性別) 男性 女性 (年齢) 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上
(職業) 会社員 公務員 自営業 アルバイト・パートタイマー 主婦 学生 その他

お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

ご記入いただきましたアンケート用紙につきましては、お帰りの際に、アンケート記入台に設置しています“アンケート回収箱”に投函していただけますよう、よろしくお願い致します。

厚生施設関係者 各位

「緊急地震速報モデル実験」に関するアンケート調査について

本日放送された緊急地震速報に関して、以下のとおりアンケートを実施しますのでご協力をお願いいたします。なお、ご回答いただきましたアンケート結果は、緊急地震速報を広く国民の皆様へ提供するための検討目的以外には利用致しません。

以下の質問について、該当事項に、もしくは回答をご記入下さい。

質問 1 「緊急地震速報」の放送が行われた時、どこにおられましたか？

食堂 喫茶店 気象科学館 書店 1階ロビー エレベーター 天気相談所
図書館 地下1階売店 講堂 事務室・会議室 現業室 その他()

質問 2 緊急地震速報のチャイム音やアナウンスは聞き取れましたか。

聞き取れた 聞き取れなかった 全く聞こえなかった

質問 3 「緊急地震速報」の放送が行われた時、どのような行動をとりましたか？

身構えたりしゃがみ込むなど、その場で身の安全を確保した。

その場から離れ、安全な場所へ移動した。

何もできなかった(その理由:)

その他()

質問 4 外来者に対する誘導はできましたか。

誘導できた。

誘導したが外来者が応じなかった。

誘導できなかった。

近くに外来者はいなかった。

質問 5 最後にあなたのことについてお聞かせください。

・性別 男性 女性

・年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上

ご協力いただき、ありがとうございました。

「緊急地震速報モデル実験」に関するアンケート調査について

質問1 「緊急地震速報」の放送が行われた時、どこにおられましたか？

食堂 喫茶店 気象科学館 書店 1階ロビー エレベーター 天気相談所
図書館 地下1階売店 講堂 事務室・会議室 現業室 その他()

質問2 緊急地震速報のチャイム音やアナウンスは聞き取れましたか。

聞き取れた 聞き取れなかった 全く聞こえなかった

質問3 「緊急地震速報」の放送が行われた時、どのような行動をとりましたか？

身構えたりしゃがみ込むなど、その場で身の安全を確保した。

その場から離れ、安全な場所へ移動した。

何もできなかった(その理由:)

その他()

質問4 外来者に対する誘導はできましたか。

誘導できた 誘導したが外来者が応じなかった 誘導できなかった
近くに外来者はいなかった

質問5 最後にあなたのことについてお聞かせください。

・所属部署 総務部 予報部 観測部 地震火山部 地球環境・海洋部
東京管区气象台 その他()

・性別 男性 女性

・年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上

ご協力いただき、ありがとうございました。

職員からはイントラ内のアンケート回答ページで、アンケート結果を集計。